

ご自由にお持ち帰りください。

生涯学習

とっとり

鳥取県教育委員会発行
2016.3 弥生

163

鳥取県内の生涯学習講座が満載!

ページ

1 特集

奥大山古道復活!

奥大山古道保存協議会

3 若者集団「大介」による地域の少年活動創造の挑戦

4 とっとり県民カレッジ連携
生涯学習講座情報 (3・4月)

26 連携講座 おすすめピックアップ

27 鳥取県立生涯学習センター

29 県民カレッジリニューアル

30 文部科学大臣表彰

31 とっとり元気フェス 2016
金融広報アドバイザーの派遣について



『切り絵シリーズ』東郷湖と梨の花 (湯梨浜町)

東郷湖から吹き上げる柔らかな風に、名産・二十世紀梨の花がほころび始めます。

絵・文：紙原 四郎 氏

奥大山古道復活！

～古道への愛着が住民の心を動かした～



平成 27 年に開催された「奥大山古道ウォーク」がとても好評だと聞いて、主催する「奥大山古道保存協議会」の活動取材してきました。会長の佐々木満さんにお話をうかがいました。

昔にぎわっていた大山への道

古来より人々の信仰を集めた霊峰大山。江府町の下蚊屋、御机、鍵掛峠から横手道を通って大山寺へ続く道は、先祖の霊を慰める地藏信仰と、牛馬の守り神として有名な大山寺詣のため、昔は大変にぎわっていました。また、全国に名だたる牛馬市が開かれた博労座への道としても多くの人や牛馬が行き交っていました。

しかし、時代の流れとともにこの道も使われなくなり、草木が生い茂って廃れ、昔の面影がすっかりなくなっていました。

現在、ここ江府町でもご多分に漏れず人口減少や高齢化が進んでいます。かつて栄えていたこの道も忘れられようとしていました。



きっかけは町史編纂

「平成の大合併」の風が吹き始めた頃です。江府町でも検討が始まり、同時に「合併したら江府町がなくなるかもしれない。最後の江府町の姿をとどめておこう」と、町史編纂に取り組みました。私はその時の編纂委員長でした。町史の中に付属資料として歴史文化地図を入れることにしました。町内各地のお年寄りたちに聞き取りを



奥大山古道保存協議会

会長 佐々木満さん

し、大山古道、古墳、たたら跡、昔の文化施設などを詳しく調査し、歴史文化地図に盛り込みました。平成 20 年 6 月、4 年半かけてようやく『新修江府町史』を発刊しました。

古道復活、やりましょう！

町史を見た御机地区老人クラブの方から「町史について話を聞かせてほしい」と依頼がありました。古道を中心に江府町の文化について話をしましたが、聞いてくださるのは私よりだいぶ先輩の方々。昔を思い出されて、途中から「あそこはこげーだった、あげーだった」と盛り上がり、「古道復活、どげな？」という声が出ました。みなさん大山古道への愛着は人一倍。その後の懇親会で「古道復活、やりましょう！」と本決まりになりました。この周辺は国立公園です。一番心配したのは、古道の復活が自然を破壊するのではないかと。そのため、植物の専門家である鳥取大学の日置教授に相談しました。

平成 21 年、2 回にわたって鍵掛峠から御机間の約 4 キロを集落の有志 9 人で現地踏査しました。また、日置研究室の学生も、御机と下蚊屋地区の住民に昔の様子について聞き取り調査を行い、古道の活用方法についても提言してくれました。



鳥取大学の学生による聞き取り調査

踏査後、笹刈りと雑木切りを行いました。約 50 年も人が入っていない道なき道は、背丈ほどのクマザサが茂り、作業が難航しました。

復活した古道の維持管理のために平成 22 年 5 月、奥大山保存協議会を設立。会員は地元 3 集落の有志、日野川の源流と流域を守る会、グランドワーク大山藪山のメンバー約 50

人です。その年の7月、会員を中心に声掛けをし、約40人で御机から下蚊屋間の4キロ弱を整備しました。

今も年に2回草刈りを行い、古道の整備をしています。このあたりは3メートルもの積雪があり、冬を越すと古木が折れて道をふさぐこともあります。このため、町の支援を受けながら会員がチェーンソーや草刈り機で手入れをします。今後は、鍵掛峠から文殊堂までの古道復活を目指しています。



年に2回、7月と10月に行われる古道整備

大人気！ おもてなし満載の「奥大山古道ウォーク」

保存協議会設立と同じ年の平成22年11月、鍵掛地蔵尊の遷座行事を記念し、初めて古道ウォークを開催しました。この時の参加者は280人。とても賑やかなイベントになりました。このイベントを契機に、2回目から「奥大山古道ウォーク」と銘打ち、毎年11月初旬に限定100人の参加者を募って開催しています。今ではリピーターも多く、キャンセル待ちがでるほど大人気のイベントとなりました。

昨年の古道ウォークは、天気にも恵まれ、絶好のウォーク日和となりました。参加者は、エバーランド奥大山に集合。開会式後、バスで鍵掛峠に移動。1グループ20人に2人のガイドが帯同して、鍵掛峠から御机経由で下蚊屋までの約8キロを歩きました。もちろんガイド役は、大山を知り尽くした会員が担当しました。

まずスタートする前に、みんなで霊峰大山に向かって手を合わせて祈ります。美しい紅葉の中をガイドの解説を聞きながら山を下り、途中、写真などで「茅葺き屋根の小屋のある風景」として有名な御机集落で休憩。後醍醐天皇ゆかりの郷土料理「御机団子汁」を集落の女性たちが振る舞ってくれます。この団子汁は絶品。野菜市も好評です。その後、終点の下蚊屋集落まで歩くと、廃校になった小学校で、「下蚊屋荒神神楽保存会明神社」の方たちが勇壮な神楽を披露してくれます。ヤマタノオロチが火を噴く場面は迫力満点。参加者は、景色、歴史、伝統文化、食を堪能し、集落の人々のおもてなしの心に包まれて大満足の様子でした。



自然の美しさと歴史を感じながらの古道ウォーク

ガイドの依頼が急増！

このイベントの他にも、町教育委員会主催の小学生を対象としたサマースクールや地元の老人クラブの行事等でたくさんの方が古道を歩くようになりました。また、古道が復活したことが広まり、旅行会社の観光コースにも組み込まれました。もちろんガイドの依頼も多くなりました。来られた方に満足して帰っていただくため、ガイドの養成が急務です。今はガイドマニュアルを作成し、学習会を開催するように準備中です。



野菜市 古道ウォーク参加者に大人気の野菜市。新鮮で格安な地野菜があっという間に売り切れます。



毎年無料でふるまわれる 御机団子汁

「今年も作りますよ！」と地元女性会が参加者全員分を準備



大迫力の下蚊屋荒神神楽
(県指定無形文化財)

奥大山の魅力を発信！

合併の道を歩まずに単独存続を選択した江府町。今、町民が一丸となり活性化に向けて取り組んでいます。そして、当協議会も町や各機関と連携して活動しています。古道ウォークも今年7回目を迎えます。今後はもっと活動を充実させ、「奥大山古道」の観光資源活用も視野に入れた取り組みをしたいと考えています。

荒れ放題だった「奥大山古道」。「古道復活、やりましょう！」という住民の声から始まったこの活動をとおして、奥大山、そして江府町の魅力をもっと発信していきたいと思えます。

ここには自慢できるものがたくさんあります。まずは来てみてください。そして私たちと一緒に歩きましょう！きっと満足されること間違いなし！

「奥大山古道ウォーク」でお待ちしています！

取材を終えて

保存協議会の会員は、昔の歴史や逸話をよく覚えていて、語り部のような存在だそうです。今後のガイドが楽しみです。

だいすけ 若者集団「大介」による地域の 少年活動創造の挑戦

一緒に学びながら、子どもたちが目指してくれる大人に!!



寄稿：大介 代表 みつだ たつひこ 三ツ田 達彦 さん

中学の同級生で結成

私たち「大介」は、湯梨浜町（旧東郷町）で活動するボランティアグループです。「大介」ができたのは今から14年前の夏。東郷湖ドラゴンカヌー大会に参加しようと中学校の同級生が集まったのが始まりです。

私は、高校と専門学校時代にレクリエーションやキャンプなどの経験があったため、キャンプ場を作って運営する県外の会社に就職しましたが、事情があって地元に戻って来ることになりました。地元で再就職し、小学校の野球少年団のコーチをしていました。

学校週5日制がスタート。学生時代の経験があったことから、「子どもたちを対象に何かレクリエーションをしてくれないか」と公民館の主事の方から声がかかりました。会を開くと、子どもたちは30人程集まってくれ大成功でしたが、「1人でするのは大変だ!」と感じました。

そのころ、休日はいつも中学校の同級生と小学校の校庭でサッカーをして遊んでいました。子どもたちが寄ってきて、いつのまにかいっしょに遊んでいる事が多かったです。子どもたちは自然と笑顔になり、大人の自分たちも楽しくなりました。このことがきっかけで、「子どもたちといっしょに遊んだり学んだりできればおもしろい!」と思い、中学校の同級生12人で「大介」を結成しました。

放課後子ども教室を支援!

町教育委員会から依頼され、湯梨浜町立東郷小学校の放課後子ども教室で子どもたちの支援をスタートしました。当初は毎月活動をしていましたが、今では、結成当時のメンバーも36才と

なり、子育てをしながら無理なく継続する為に、年間6回毎回10名程度のメンバーが集まり、子どもたちと一緒にキャンプや料理教室等をしています。年6回のうち2回は夏と冬に1泊2日でキャンプをします。キャンプをとおして自然体験とともに、皆で協力する事の大切さ、達成感、そして子どもたちだけで宿泊するワクワク感を体得して欲しいからです。

また、この放課後子ども教室の他に、東郷湖ドラゴンカヌー大会や町主催のゆりはま子育て応援フェスタにも参加しています。

メンバーは子どもたちにとって憧れの存在

「大介」のメンバーは、中学生7人、高校生4人、大人10人の計21人。「メンバー自身が楽しむこと」をモットーに活動しています。楽しく活動することで、子どもたちも自然と打ち解け、成長していきます。そして「僕たちもお兄さん、お姉さんのようになりたい!」と憧れてくれます。一緒に遊んでいた子どもたちが大きくなり、中学生になると、「大介」のメンバーに加わってくれるようになります。長く継続することで新たな出会いが生まれ、活動自体も深まってきました。

「大介」は生きた教育の場

この活動をとおして、メンバーはもちろんのこと、子どもたちも地域の魅力や異年齢での関わり方など、学校では体験できないような多くのことを学んでいきます。まさに「大介」の活動は、「生きた教育の場」だと感じています。

ここでの経験が、きっと人生の中で役に立ってくれるものと信じています。何かのきっかけになるために、「大介」は存在し、子どもたちの憧れるグループであり続けたいと思います。



子どもたちと一緒にケーキづくり